

気候変動対策の方向性 <将来のまちの姿>

地域力を活かした地域循環共生圏型の気候変動対策

地域内のものや
サービスを
消費する脱炭素化に向けて
小さな一歩でも
少しずつ過去を過信せず
助け合いと
備えを他地域や
多様な主体
による連携

策定の背景

迫りくる気候変動への脅威

- 疑う余地がない気候システムの温暖化
- パリ協定の採択・発効
- 今世紀末の平均気温上昇 1.5℃未満に
- 世界で頻発する異常気象・気象災害

気候変動対策「緩和と適応」

- 国内目標：2030 年度に 2013 年度比 26%減
- 地域の実情や特性に応じた適応策が重要

環境・経済・社会の統合的解決へ

- SDG s 採択「そして私たちの世界を変えよう」
- 地域循環共生圏の提唱

本市の温室効果ガス

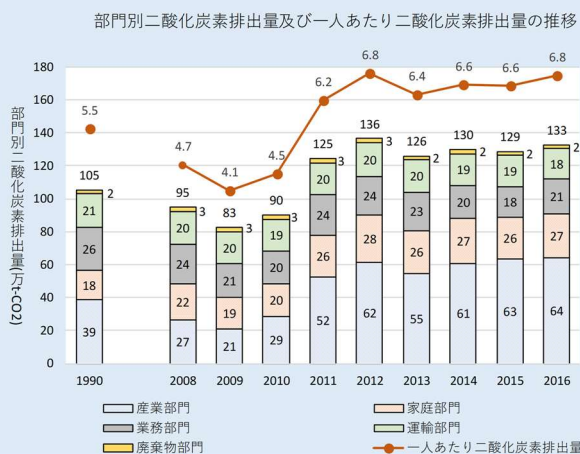
2009 年度以降大きく増加

2013 年に減少し、その後ほぼ横ばい

○1990 年度からは 25.8%増加、2013 年度から 5.2%増加。

○事業所進出や景気回復、世帯数増加などを背景に、産業部門と家庭部門が増加。

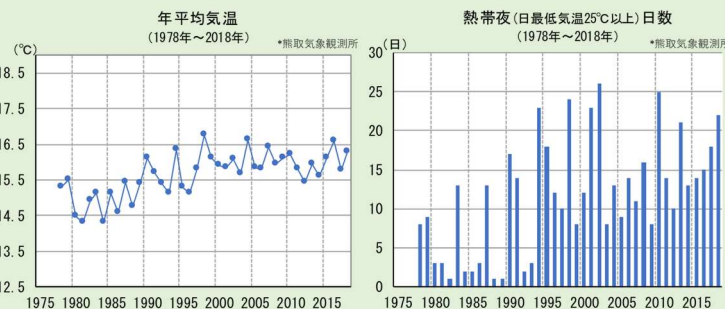
○産業部門が多いのが特徴で、電力使用による排出量が多い。



本市の気候変化

<これまで>

- 年平均気温は近年やや上昇。真夏日や熱帯夜は増加傾向。
- バケツをひっくり返したように降る「激しい雨」(30mm/h 以上)を記録する年が増加。



<将来>

- 大阪府の気温は、21 世紀末に、20 世紀末と比べて 3.6～4.5℃上昇すると予測。
- 滝のように降る「非常に激しい雨」(50 mm/h 以上)の発生回数が約 3 倍増加。一方で、無降雨の日も増加すると予測。

気候変動と適応

緩和とは？ 適応とは？



人間社会や自然の生態系が危機に陥らないためには、実効性の高い温室効果ガス排出削減の取組を行っていく必要があります。温室効果ガスの排出抑制に向けた努力が必要です。

緩和を実施しても気候変動の影響が避けられない場合、その影響に対処し、被害を回避・軽減していくことが適応です。

温室効果ガス排出削減に向けた取組及び施策（緩和策）

2030 年度に
30%以上削減
(2013 年度比)

2030 年度に向けて

- 社会変化(人口減、事業所増等) ➡ 約+6.1%
- 市域内の部門別の施策・取組 ➡ 約-22.6%
- エネルギーミックスによる電力CO₂排出係数の低減 ➡ 約-18.0%

脱炭素化に向けた
取組

再生可能エネルギーの導入促進

吸収源対策の推進

省エネルギーな
暮らしや事業活動
の実現

(産業) 事業活動の省エネ化

(民生) 住まいとライフスタイルの省エネ化

低炭素型まちづくりの推進

- ・公共施設における省エネルギー対策の推進
- ・エネルギー管理の観点を活かしたまちづくりの推進
- ・環境負荷の少ない移動手段の促進
- ・旬の食品や地元産品の購入・利用促進

循環型まちづくりの推進

- ・家庭系ごみ・事業系ごみの減量化・再資源化の推進

気候変動への備え（適応策）

<適応策の考え方>

- 適応策は私たちの生活や産業、環境などあらゆる要素に関係する。
- 1 つの適応策が統合的な効果につながることに期待するとともに、ある適応策が異なる分野や要素に及ぼす負の影響にも十分配慮する。
- 市民・事業者など多様な主体との連携や、全庁的な連携を進める。

分野	本市で生じるおそれのある主な影響	本市が進める適応策
農林水産業	・農作物の品質低下や生育障害 ・病害虫の発生増加や自然災害による農作物被害の拡大 ・ため池の被害発生リスクの増加 ・海水温の上昇等による水産物の漁獲量減少 など	農家等への普及啓発 ため池被災リスクの低減 森林の保全整備 水産資源の影響把握 など
自然環境	・水温上昇による水質等の変化や渇水の増加 ・気温上昇など環境変化による生物生息域の変化 ・自然災害などによる自然生態系の変化 ・外来種の侵入・定着 など	水域や生物のモニタリング 生物多様性保全の理解促進 生態系ネットワークの確保 など
自然災害	・ゲリラ豪雨等の増加による水害リスクの高まり ・高潮などによる背後地への浸水被害 ・土砂災害の発生頻度の増加、警戒避難時間の短縮 ・台風・豪雨等によるインフラ・ライフラインへの影響 ・災害による行政機能や経済活動への影響 など	雨水排水・貯留浸透機能の拡充 ハザードマップの更新・作成 災害リスクの情報提供 災害廃棄物の処理に関する検討 災害時の応援体制の充実 など
健康・市民生活	・熱中症の増加 ・祭・イベントにおける熱中症患者の増加 ・デング熱など感染症リスクの増加 ・ヒートアイランドの進行 など	熱中症予防・対処法の普及啓発 感染症対策の普及啓発 ヒートアイランドの緩和 など

～ 市民や事業者のみなさんへ 身近でお願いしたいこと ～

CO₂を減らす （緩和策）

【市 民】の行動の一例

日 々 の 暮 ら し	■ 全般）家電製品を省エネ性能の高いものに買い替える
	■ 全般）地域で採れた食べ物を食べたり、地域産の木材・竹を使う
	■ 冷暖房）エアコンや電気カーペット等の設定温度を変更する
	■ 冷暖房）エアコンのフィルターを掃除する
	■ 牝 ヲグ ）家族で一緒の部屋で過ごす
	■ 牝 ヲグ ）54W 白熱電球 10 個を 9W 電球形 LED 電球に取り替える
	■ 水回り）水道やシャワーを流しっぱなしにしない
	■ キッチン）生ごみの水切りを進める
	■ キッチン）食品ロスを減らす
	■ キッチン）冷蔵庫にものを詰め込みすぎない
い え ・ 建 物	■ 廃棄物）再生利用にむけた適正な分別を行う
	■ 家庭用太陽光発電システムを導入する（自家消費：蓄電池併用）
	■ 薪ストーブやペレットストーブを導入する（バイオマス利活用）
	■ 家庭用燃料電池（エネファーム）を導入する
	■ ヒートポンプ給湯器（エコキュート）を導入する
	■ スマートメーターや HEMS など で電気やガスの使用量を把握する
	■ 宅配ボックスを設置する
移 動	■ 敷地の緑化やグリーンカーテンなどで暑さを和らげ、冷暖房の使用を減らす
	■ 近距離を移動する時は、車の使用を抑える
	■ エコドライブを実践する
	■ 車を購入する際は、次世代自動車などのエコカーを選択する
地 域 ・ ま ち	■ 車を持たずカーシェアリングを利用する
	■ 地域の森林保全活動に参加する
	■ 打ち水をする

【事業者】の行動の一例

日 々 の 事 業 活 動	■ 省エネルギーに向けた目標や行動計画を作成する
	■ 環境管理システム（ISO14001 や EA21 など）を導入する
	■ 地球温暖化対策に取り組む部署や担当を設置する
	■ グリーン購入を積極的に実践する
	■ ワークスタイルやビジネスのあり方を見直す
	■ クールビズ、ウォームビズを実施する
	■ 従業員に職場での省エネ行動や 3 R を徹底する
	■ 従業員の環境知識の向上に取り組む
	■ 冷房 28℃、暖房 20℃に
	■ O A 機器の電源や照明などをこまめに切る
建 物 ・ 管 理	■ 簡易包装を推進する
	■ 顧客、取引先等のステークホルダーにも呼びかける
	■ 自社のエネルギー使用量を把握する
	■ 購入時期にあわせて、省エネ効果の高い製品を導入する
	■ 燃料電池やコージェネレーションなど高効率機器を導入する
移 動	■ 照明は高効率照明器具に交換する
	■ 再生可能エネルギーの利用を推進する
	■ エコドライブを実践する
	■ 物流の効率化を図る
地 域 ・ ま ち	■ 次世代自動車を導入する
	■ 従業員にエコ通勤を推奨する
	■ 事業所内の緑化や、屋上緑化、壁面緑化を進める
	■ 地域の活動に参加する

環境以外のメリット

- 光熱水費の削減
- 最新家電の新機能

- 家族のコミュニケーション増加

- 非常時の電源確保
- 建物の資産価値の向上
- 生活の憩いや景観向上
- 生物の生息場所の確保

- 健康増進
- 車による交通事故の減少
- ガソリン代など家計の節約
- 交通渋滞にあわない
- 地域のコミュニケーション増加

環境以外のメリット

- 投資家や顧客の評価向上
- 企業のイメージアップ

- 従業員の働き方改革
- 生産性向上
- 職場の快適性の向上

- 経費削減
- ステークホルダーとの関係強化

- 自主電源確保等、災害時のリスク対策
- 車による交通事故の減少
- 従業員の健康増進

- 新たなビジネスチャンス
- 社内コミュニケーション活性化

気候変動に備える （適応策）

【市 民】の行動の一例

自 宅	■ 住宅回りの緑を増やしたり、風通しを良くするなど、快適に過ごせる工夫をする
	■ 空調を活用して、熱中症にならないようにする
	■ 大雨や台風などの被害があった時に、自分で応急措置できるようにしておく
	■ 防災グッズを用意しておく
	■ 自宅で被害の出やすい場所をあらかじめ知っておく
学 校 や 職 場 で	■ 窓際の日差し対策のため、グリーンカーテンに取り組む
	■ 運動時や作業時は定期的に休憩と水分をとり、熱中症に気をつける
	■ クールビズ・ウォームビズで服装を調整する
	■ 急な大雨に備えて、置き傘を用意しておく
地 域 ・ ま ち	■ データのクラウド化を進めて、大雨や災害時に自宅で仕事をできるようにする
	■ 地域の図書館や公民館、ショッピングセンターなどで涼んで、電気代を節約する
	■ 夏に出歩くときは水筒や帽子を持ち歩くようにする
	■ 酷暑の日は、朝や夕方の涼しい時に行動し、昼間は休憩する
	■ 雨水の流出を抑制するため、ため池等を有効活用する
	■ 地域での防災訓練に参加して、近所の人と顔なじみになる
食	■ 大雨や台風、暑熱に備えて、地域の行事やイベントの時期をずらす
	■ 家庭菜園で自分が食べるための野菜を作る
	■ 気候に合った作物や品種を栽培する
	■ 食材の旬がずれていることを知り、代替することもある
ま な び	■ 天気予報に注意して、早めに行動するようにする
	■ 地域の地理や災害の歴史について調べる

【事業者】の行動の一例

リスク管理	インフラ	■事務所や工場等の立地場所の災害リスクを調べる
		■事務所や工場等の立地場所の海面上昇による影響を調べる
	従業員・事業活動	■従業員の熱中症を予防対策を行う
		■大雨や台風時における従業員の通勤ルールを決めておく
		■テレワークや在宅勤務制度を整備する
	開発・製造 供給・物流	■気温の変化による製品の売り上げ変化を調べる
		■災害時に備えて生産機能の分散化を検討する
		■原材料の調達先の代替を準備しておく
		■水資源の確保や節水に努める
	経営・管理その他	■酷暑や大雨、災害などを想定し、消費者の行動を予測する
■気候変動による取引や融資の条件の変化を想定し、経営計画を立てる		
ビジネス	■自社の技術・製品・サービスを洗い出し、既存の事業活動を適応ビジネスとして展開する	
	■気候変動の影響によるニーズが高い新たなビジネス分野に新規展開する	

参考資料
環境省 COOLCHOICE サイト
資源エネルギー庁「省エネポータルサイト」パンフレット一覧ページ
気候変動適応情報プラットフォーム
環境省「民間企業の気候変動適応ガイド」（2019.3）

